卯五月廿六日亜國軍艦便ニ托ス

荒木済三郎
高木与惣九郎

明廿二日亜國（ミニストル）当地出帆ニ付右國官船ニ而砲調後
並宮澤六之丞ヨリ添翰相問此書状（相托候様ニ付）致啓
上候然者
一 先便ニ申調候通リ一箇候我國船水先案内（無之而ハ）進退
達仕候旨申立候節書面相渡候儀ニ付
幸便（を以て）達書一枚差出候証書相廻し（中略）
一 神奈川在留西國人所々箱館并外國（六ヶ所ルト）
右之人々ら書翰封神奈川奉行ら遣し被申候
右之一件中候故書遣し之段御承知候

---

一 先便申進候当之日本（御取扱）被相渡候被成候様致度
右之趣為心得被申進候以上
四月 日

新藤鉄蔵

杉浦愛蔵様

一　去寅十月ゟコンシユル殿ゟ開港場其外重立候者ゟ相願之為
去九十四日開港場ゟ被仰渡候ニ付安ゟ以差出申候
一　然處中方ゟ魯西コンシユルへ當部當港英魯開港
之儀ニ付候書翰写和蘭御國ゟ御達哉
候間写追而申候様達可被成候
右之御報得御意如此御座候以上
四月廿一日
新藤鉊蔵
杉浦兵庫頭様

---

卯六月朔到来
荒木佛之郎
高木下知九兵衛
以書状致啓上候然者横浜表在留英国公使ゟ
箱館在留同国コンシユルゴールト江書翰壱封右方ゟ
申出候ニ付同国方へ差越候間相届申候様御達可被成
候右可得御意如此御座候以上
四月十二日
新藤鉊蔵
病気ニ付不加印
小出大和守
杉浦兵庫頭様